SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

知的障害教育におけるキャリア発達を促す職業科の実践：体験の抽象化と自己形成

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2023-03-13 キーワード (Ja): 知的障害教育, 職業科, キャリア発達, 自己実現と自己形成, 体験の抽象化, 価値観, 自己理解 キーワード (En): 作成者: 岩佐, 恭平, 矢島, 渚人, 籔, 奈緒, 稲葉, 彩里沙, 石川, 慶和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029452

教育実践報告

知的障害教育におけるキャリア発達を促す職業科の実践

－体験の抽象化と自己形成－

岩佐　恭平（静岡大学教育学部附属特別支援学校）
矢島　渚人（静岡大学教育学部附属特別支援学校）
籔　　奈緒（静岡大学教育学部附属特別支援学校）
稲葉彩里沙（静岡大学教育学部附属特別支援学校）
石川　慶和（静岡大学教育学部）

Practice of Vocational Courses to Promote Career Development in Education for Intellectual Disabilities

Experiential abstraction and self-formation

Iwasa Kyohei , Yajima Nagito , Yabu Nao , Inaba Arisa
(Special Needs Education School affiliated with Shizuoka University Faculty of Education)
Ishikawa Yoshikazu
(Shizuoka University Faculty of Education)

要旨

本実践は、知的障害教育高等部の職業科において、生徒が将来の職業生活を見据え必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え実践を評価・改善して表現する力を養うとともに、自分が目指す将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、今の生活を改善しようとする実践的な態度を養うことで生徒のキャリア発達を促すことを目的としている。本校高等部１年生の教育実践をとおして、この目的を達成するためには、①今の取組（生活の目標と方策）に対する納得感をもつこと、②自己の価値観を知り、他者の価値観との共通点や相違点に気付き、自己理解を深めること、③自己成長の実感と今の取組（生活の目標と方策）が未来（職業生活）につながっている実感をもつこと、の３点が大切であることがわかった。そして、①②③のサイクルを回すことで生徒は職業科の学びを自分事として捉えられるようになり、生徒のキャリア発達を促す（自己実現のリフレクションと体験に基づく自己形成を図る）ことができることがみえてきた。

キーワード：知的障害教育　職業科　キャリア発達　自己実現と自己形成　体験の抽象化　価値観　自己理解

Ⅰ　前期教育実践からの課題と本実践の方向性

１．前期（４～７月）の教育実践からの課題

前期の職業科において、自分が希望する将来の職業生活を見据え、目指す姿（なりたい自分）に向けた今年度の目標を設定し、そのための方策（日々の学校生活・家庭生活でどんなことに取り組むのか）を考え、実践と振り返りを行って結果を整理して見直し、新たな目標設定を行う PDCA サイクルで「自己実現」を目指す取組を始めた。また、その取組を６月に行われた集団実習につなげ、一人一人の生徒が目的意識をもって実習に取り組むことができるように学習を進めた。自分たちが決めた目標を達成するために粘り強く方策を実践する生徒もいた半面、方策への意識が継続しなかったり、なぜその目標と方策に決めたのかという理由を忘れてしまったりする様子が見られた。これは、生徒たちが PDCA サイクルで課題解決に迫る取組に慣れていないというよりも、将来の職業生活に対する具体的なイメージがもてていないため、将来の職業生活と今の生活が遠すぎて現実味を感じていないこと、将来の職業生活と今の生活の目標と方策がつながっていることに実感がもてていないため、今の生活の目標と方策に対する納得感が得られていない（自分事として捉えることができていない）ことなどが原因であると感じた。また、自分が希望する将来の職業生活を見据え、その実現に向けてどんなことを知るべきか、どんなことができるようになるべきかなどの自分にとって必要なことを整理して考えるためには、「今の自分がどんな人なのか」をより深く理解する必要があると感じた。そこで、本実践は、自己理解を深め自分がどんな人なのかをもっと詳しく知るとともに、今の生活の目標と方策が将来の職業生活につながっている実感や、今の生活の目標と方策に対する納得感をもち今の生活の目標と方策を自分事として捉えることができるようにしたいと考えた。

２．学習指導要領との関係性

特別支援学校学習指導要領解説知的障害教科教育編（下）（高等部）（文部科学省,2019）においては、指導の要点として以下の２点（抜粋）が示されている。

①職業に関する実践的・体験的な活動と知識・技能を相互に関連付けて課題解決を図るなどして、実際の生活に生きる力や生涯にわたって活用できる資質・能力が育成されるように工夫すること。
②実践的・体験的な活動を自己の成長と関連付けて、一人一人の生徒のキャリア発達を一層促すこと。

そこで、本実践は、実践的・体験的な活動として、産業現場等における実習（現場実習）を位置付けるとともに、現場実習を終えたときにどんな自分になっていたいかという目標とそれを達成するための方策を明確にした上で実習に参加できるようにした。また、現場実習の振り返りにおいては、目標と方策に対する取組結果を整理するだけではなく、さまざまな出来事（成功談や失敗談）や出会った人など、生徒が印象に残っているエピソード（体験）からどんなことを学べたかを教師との対話をとおして整理することで、一人一人の生徒が現場実習をとおして多くの大切な考え方（価値観）を学べたことを理解し、自己の成長をより実感できるようにしたいと考えた。

３．キャリア発達の視点

職業科は上記の学習指導要領解説の指導の要点に記載のとおり、一人一人の生徒のキャリア発達を一層促すことが求められている。キャリア形成には、以下の３点が大切な要素として示されている。

①何が好きか（興味・関心や「やりたい・やりたくない」の理解＝動機・欲求の理解）
②何ができるか（「できる・できない/得意・苦手」の理解＝能力・才能・コンピタンス（強み）の理解）
③何に意味や価値を感じ、自分が役立っていると感じられるか（自己の価値観理解）

①・②については、前期の授業において、「やりたい・やりたくない」、「できる・できない（難しい）」という２つの観点で、現在の作業学習における仕事内容や、１学期に２・３年生が現場実習で体験した仕事について観点を図式化したワークシートに分類する（写真を貼り付けていく）学習を行い、「自分はどんなことに興味・関心があるのか、今の自分はどんな仕事が得意でどんな仕事は苦手なのか」を目で見て確認できるようにした。そのため、本実践においては、③の自己の価値観理解に着目し、今の自分が大切にしている考え方（価値観）は何かを目で見て確認できるようにする（価値観の見える化を図る）ことで、さらに自己理解を深めていきたいと考えた。

また、キャリア発達には「自己実現」と「自己形成」が必要であり、自己実現や社会貢献に対する振り返り（体験⇄内省（リフレクション））と体験に基づいた自己形成が大切であると示されている。そこで、本実践においても、キャリア発達に必要な「自己実現」と「自己形成」の２つの視点を取り入れ、現場実習前後において、以下の①～⑤の流れで学習を進めることとした。

①現場実習を終えたときにどんな自分になっていたいかという目標を立て、その目標を達成するための方策（作業の方策と生活の方策）を考え、それを実践する。
②現場実習の振り返りにおいて、目標と方策の達成状況を自己評価と他者評価（実習先の評価）から分析し、結果を整理する。（自己実現の体験⇄内省（リフレクション））
③現場実習中のさまざまな出来事（成功談や失敗談）や出会った人など、生徒が印象に残っているエピソード（体験）からどんなことを学べたかを分析し、結果を整理する。（体験に基づいた自己形成）
④ ②、③を友達と共有する。
⑤ ②、③の振り返りを元に次の目標と方策を考え、今の生活につなげる。

特に②③④の振り返りと共有に時間をかけて丁寧に行うことで、生徒一人一人が、今回の現場実習をとおして多くの大切な考え方（価値観）を学べたことを理解し、自分の成長を実感することで、自己の価値観のアップグレードを促してしていきたいと考えた。

客観的な評価として他者評価を取り入れる目的は、「社会的規準が存在することを知り、自己評価とのギャップを理解すること」である。本人の取組を社会的規準に近づけることを促すことが目的ではなく、「地域社会が求めている人・もの・こと」を知り、自己の目指す姿との違いを知ることで、将来の職業生活に向けて、ギャップを自分で補うのか、他者からの支援を自ら求めて補うのかを、自分で思考・判断すること（セルフアドボカシー）につなげていくことを目的とした。

Ⅱ 教育実践（高等部１年生の実践）

１．自己理解を深める（自己の価値観理解と価値観の見える化）

自分が希望する将来の職業生活を見据え、その実現に向けてどんなことを知るべきか、どんなことができるようになるべきかなどの自分にとって必要なことを整理して考えるためには、「今の自分がどんな人なの

か」をより深く理解する必要がある。そこで、本実践においては、キャリア形成の要素の１つである「自己の価値観理解（今の自分が大切にしている考え方は何かを知ること）」を促していきたいと考え、以下の学習を行った。

（１）性格チェックの実施

性格という生徒がこれまでの生活において聞き覚えがあり、優しい性格、明るい性格などイメージのしやすい言葉を使って、日頃の生活において自分が大切にしている考え方は何かを自己チェックした。自分が大切にしている考え方を知るだけではなく、他者評価として友達から見た自分の性格も確認できるようにして、自己評価と他者評価のギャップを知り、自分から見た自分と人から見た自分には共通点と相違点があることを実感できるようにした。今の自分を振り返るだけでなく、日頃生活をともにしている友達から見た自分の姿を知ることで、「友達からはこんな風に見えているのか。」と発言する生徒の姿が多く見られ、自己理解の深まりを感じた。

（２）価値観チェックリストの実施

マズローの欲求段階説の考え方を参考に価値観を 30 の項目にまとめた価値観チェックリスト（表１）を使って、今の自分が大切だと感じた考え方を 10 個選び順番に並べる活動を行った。選ぶときは、あまり深く考えずに直感的に大切と感じた項目を 10 個選ぶようにし、選んだ後はそれぞれを比較しながら大切だと考える順番に並べるように促した。順番を決めるときには、他者評価は入れないようにして本人の考えたとおりに並べて自己評価を尊重することで、今の自分が大切にしている考え方（価値観）を自分なりに考えられたことを実感する様子が見られた（図１）。

※図１、３～９は個人情報保護のため生徒の自筆を活字に修正した

表１　価値観チェックリストの内容

マズローの欲求段階	価値観の項目（カテゴリー）
安全の欲求 （生命の安全を守る）	健康、環境・平和・安全、整理、安定
社会的欲求 （所属と愛）	親密さ・友情、コミュニティ、精神的な成長、所属、援助、交渉、寛大、公平、寛容、誠実
承認欲求（尊厳）	個人的な成長、見た目、正当性 自己受容・有能感、競争・権威
自己実現欲求	喜び、審美、繁栄、向上、達成、挑戦・冒険・勇気、権力、崇高、合理性
自己超越欲求	創造、尊重

（３）ライフラインチャートの作成

ライフラインチャート（自分の人生を振り返り、印象に残っている出来事の幸福度を数値で表し、一本の曲線で見える化したもの）を作成した。作成後にライフラインチャート（図２）を見て分かることは何かを考える活動を設定し、自分がこれまでの人生で大切にしてきた考え方（価値観）は何かを価値観チェックリストの項目を参考にしながら分析結果シート（図３）に整理した。その際、教師と対話をしながら分析結果を整理することで、客観的な視点を取り入れるようにした。自分の人生における体験から学ぶことができた大切な考え方を確認することができたため、「〇〇の体験のときに××の気持ちになったのは、自分が△△という考え方を大切にしているから」というように、体験と気持ちと価値観をつなげて考えることができ、納得感を感じながら自己理解を深めることができた。

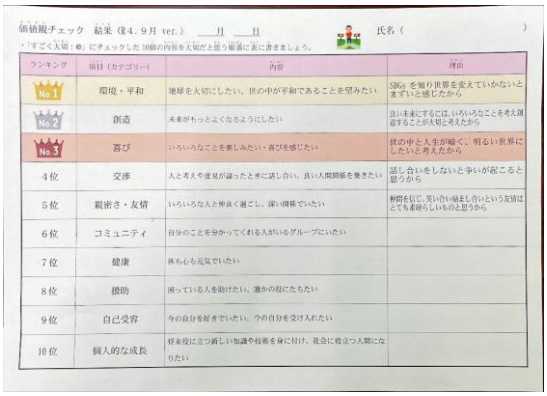

図１　価値観チェックリストの結果

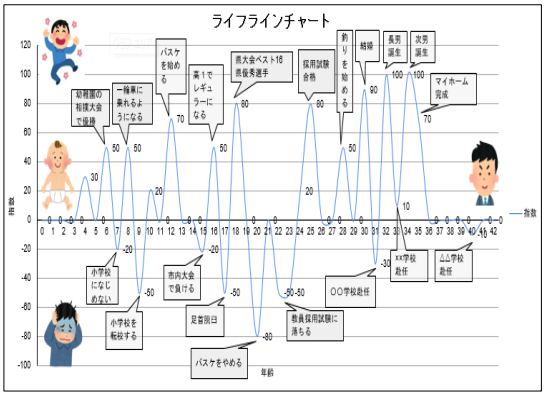

図２　ライフラインチャート（見本）

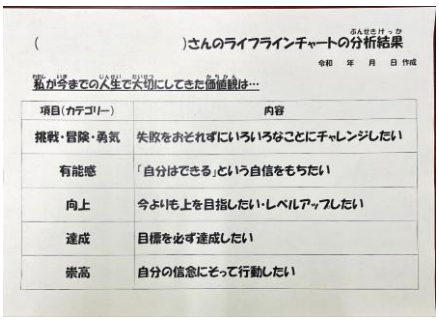

図３　ライフラインチャート分析結果シート

（4）キャリア・アンカーシートの作成

価値観チェックリストの結果とライフラインチャートの分析結果を照らし合わせて、今の自分が最も大切にしている考え方（キャリア・アンカー）を価値観の中から６つ選ぶ活動（キャリア・アンカーシート（図４）の作成）を行った。自分の直感的な結果である価値観チェックリストと客観的な視点を取り入れ納得感の高い結果であるライフラインチャートのそれぞれの結果を見比べて、今の自分が一番納得する大切な考え方（価値観）を選ぶように促した。選ぶ際は、他者評価は入れないようにし、本人の考えたとおりにキャリア・アンカーシートに記載するようにした。２つの分析結果を見比べ、今の自分が大切にしている考え方としてどれが一番納得できるかを深く考えながら選ぶ姿が見られた。

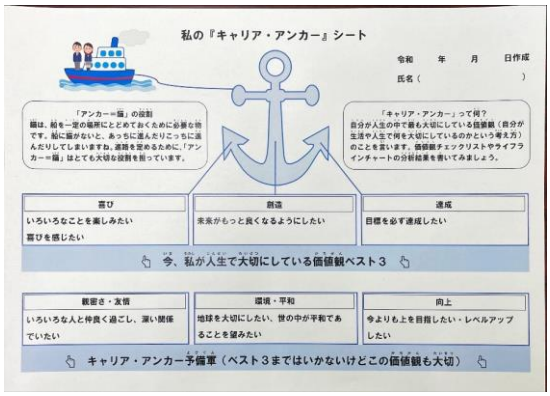

図４　キャリア・アンカーシート

（5）自己理解を深める学習をとおして

以上の取組をとおして、価値観という目には見えない抽象的な概念を見える化することで、自分が今生きている生活の中に、価値観という概念が存在していることを実感できるようになった。また、自分が今の生活の中で大切にしている考え方は何なのかを理解するだけでなく、それぞれのキャリア・アンカーを共有する機会を設け、友達が生活の中で大切にしている考え方は何なのかを知り、自分と他者との価値観の共通点と相違点に気付くことができるようにした。自他を比較することでさらなる自己理解の深まりが見られた。

２．成長を実感する（体験の抽象化と価値付け）

本実践では、実践的・体験的な活動として、産業現場等における実習（現場実習）を位置付け、一人一人の生徒が現場実習をとおして多くの大切な考え方（価値観）を学べたことを理解し、自己の成長をより実感できるようにしたいと考えた。そのための活動として、前期に行った PDCA サイクルで自己実現を目指す取組に加えて、現場実習でのさまざまな出来事（成功談や失敗談）や出会った人など、生徒が印象に残っているエピソード（体験）からどんなことを学べたかを分析して整理する取組を取り入れることとした。

（1）現場実習エピソード記録集の作成

現場実習中、生徒は現場実習日誌で自己実現に対する自己評価を記録するとともに、客観的評価として実習先の担当者の方に生徒の目標と方策の達成状況を記入してもらうようにした。また、現場実習エピソード記録集（表２）にどんな出来事があったのか、どんな人と出会うことができたのかを毎日記録した。

実習終了後の振り返りにおいて、まずは、目標と方策の達成状況を自己評価と他者評価から分析して結果を整理する活動を行い、自己実現の体験をリフレクションした。ここでは、教師と対話をしながら成果と課題を整理するようにして、生徒が成果・課題のどちらかだけに着目してしまったり、他者評価だけに着目してしまったりすることがないように注意した。成果については、生徒の頑張りを大いに称えて自己肯定感を感じることができるようにした。課題については、教師と対話をしながら近接課題（学校生活において少しの努力をすれば課題解決できそうな課題）と発展課題に整理し、今後の学校生活の目標と方策につなげるようにした。また、「課題＝できなかったこと」という側面だけに着目してしまうと自己肯定感が下がってしまうため、「課題＝自分が成長（パワーアップ）するための種」と前向きに捉えることができるように対話を心掛けた。

表２　現場実習エピソード記録集の内容

①今日、一番うれしかったことは何ですか？
②家族や先生に自慢したい（聞いてほしい）今日一番頑張ったことは何ですか？
③今日、一番やる気がでた（もっと頑張ろうという気持ちになった）ときはどんなときですか？
④一緒に働いているまわりの人の中で、一番すごいと思った人は誰ですか？それはなぜですか？（どんなところがすごかったですか？）
⑤今日、失敗してしまったことは何ですか？
⑥今日発見した職場での「小さな楽しみ」は何ですか？
⑦今日の昼休みや、作業の合間の休憩時間は何をしましたか？

（2）現場実習エピソードⅠの作成

エピソード記録集を使って、現場実習中のさまざまな出来事（成功談や失敗談）や出会った人など、生徒が印象に残っているエピソード（体験）からどんなことを学べたかを分析し、結果を整理した。この活動をとおして、生徒自身の体験に基づいた自己形成を促したいと考えた。まずは、エピソード記録集の内容を項目ごとに現場実習エピソードⅠ（図５）にまとめ、そ

の後それぞれの項目に記載された体験からどんな大切な考え方（価値観）を学ぶことができたのかを考えるように促した。その際、教師と対話をしながらそのときの自分の状況（どんな仕事をしていたのか、なぜそう感じたのかなど）をできるだけ詳しく確認したり、自分と周囲の人との関係性をイラストで示したり、教師とロールプレイをしたりするなどの教師とのやりとりをとおして、そのときの自分の気持ちを詳しく思い出したり、他者の気持ちや意思を想像したりすることができるようにした。そして、そこから分かったことを自分なりの言葉で書き、それを体験から学ぶことができた大切な考え方として価値付けるようにした。自分の成長を実感できるようにするため、体験から多くの価値観を学べたことを大いに称えることを心掛けた。また、お互いの体験とそこから学んだ大切な考え方について共有する機会を設け、友達や先生の前で自分が体験をとおして学んだことについて自信をもって発表し、他者からの賞賛を受けることで、生徒の自己肯定感を高めることができた。

図５　現場実習エピソードⅠ

３．今の取組（生活の目標と方策）が将来の職業生活とつながっている実感と今の取組に対する納得感をもつ

（１）実習先（職場）価値観シートの作成

現場実習エピソードⅠや自分の実習先の会社・事業所の理念や環境、そこで出会った人たちの働いている様子や接して感じたことを元に、実習先や実習先で出会った人たちの大切にしている考え方は何かを考え、実習先（職場）価値観シート（図６）にまとめた。その際、教師と対話をしながら自分と周囲の人との関係性をイラストで示したり、教師とロールプレイをしたりして、他者の立場や役割、気持ちや意思を想像できるようにした。そこから分かったことを自分なりの言葉で書き、それを実習先（職場）が大切にしている考え方として価値付けるようにした。また、この実習先（職場）が大切にしている価値観は、将来の自分の職業生活においても大切になる可能性が高いことをおさえた。

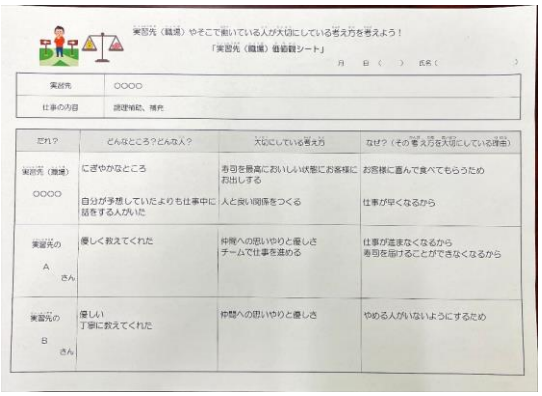

図６　実習先（職場）価値観シート

（２）価値観カードの作成

これまでの学習の中で、「価値観」という共通の言語（共通のキーワード）を手掛かりにして、キャリア・アンカーシート（図４）や現場実習エピソードⅠ（図５）、実習先（職場）価値観シート（図６）を作成し、自己の体験から学んだ大切な考え方（価値観）を整理してきた。その整理した結果をいつでも自分で振り返ることができるようにするため、「価値観カード」を作成した。価値観カードは、①自己理解を深める活動において考えたキャリア･アンカーカード(青色６枚)、②現場実習エピソードⅠで確認した体験から学ぶことができた価値観カード（黄色３～６枚程度）、③実習先や出会った人たちが大切にしていた価値観カード（ピンク色２～３枚程度）の３種類（図７）を作成した。

３種類の価値観カードは、キーワードを表面に記載し、裏面にはキーワードの意味や自分自身の体験、実習先の環境や出会った人の働いている姿等を記載して、裏面を見ればいつでもその価値観カードをつくった理由や背景を確認できるようにした。この３種類(３色)のカードを種類ごとにファイリングし（図８）、カードを見返すことで、①自分がこれまで大切にしてきた価値観（青色カード）、②体験から学ぶことができた価値観（黄色カード）、③実習先（職場）が大切にしている価値観（ピンクカード）には共通点と相違点があることに自分で気付くことができた。また、①と②の２種類のカード（青・黄のカード）の中と、③のカード（ピンクのカード）の中に共通したカードがあることを知ることで、今の自分の取組が将来の職業生活とつながっていることを実感できた。

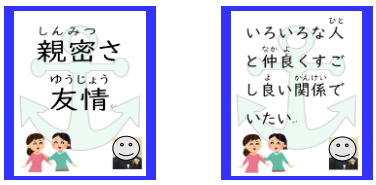

表　　裏

図７　青色カードの見本(自分がこれまで大切にしてきた価値観)

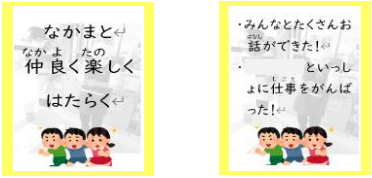

表　　裏

図７　黄色カードの見本(体験から学ぶことができた価値観)

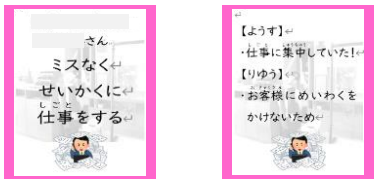

表　　裏

図７　ピンクカードの見本(実習先の職場が大切にしている価値観)

※実際の青、黄色、ピンクの３色の価値観カードはそれぞれの生徒が自分で作成した（個人情報保護のため自筆を活字に修正）

図８　価値観カードファイル

（３）価値観パワーアップシートの作成と共有

作成した３種類の価値観カードを使って､合計 10 数枚のカードの中から、今後の生活で大切にしていきたいカードを１枚選び、その価値観を大切にするための方策（これからの生活で具体的にどんなことをすれば良いのか）を考える活動（価値観パワーアップシート（図９）の作成）を行った。どの色のカードからどんなカード（価値観）を選ぶかは、生徒自身の意思を尊重し、自己選択・自己決定を促した。ここでは、10 数枚のカードから何を選んだかではなく、「３色のうち何色のカードを選んだか」に着目し、教師との対話をとおしてその理由をワークシートに詳しく書けるようにした。これは、どの色のカードを選ぶかで現在の生徒の本当の意志（自分がどうしたいのかという確固たる思い）を客観的に捉えることができると考えたからである（表３）。

表３　カードの色と生徒の意志の関係

色	生徒の意志
青	今まで大切にしてきた考え方をこれからも大切にしていきたい
黄	実習をとおしてその価値観の大切さを実感できたからこれから大切にしてみたい
ピンク	将来の職業生活において大切になりそうだから自分も大切にしていきたい

生徒たちは、将来の職業生活においても自分の価値観と職場の価値観が一致するとは限らず、その価値観の違いやギャップに対して、自分で調整したり折り合いをつけたりして取捨選択をしていく必要がある。その際も、大切なのは本人の意志である。そのため、この活動においても生徒の自己選択・自己決定を尊重するようにした。また、本人の意志をベースにして今後の生活の目標と方策を考えることで、納得感をもって方策の実践ができるようにしたいと考えた。

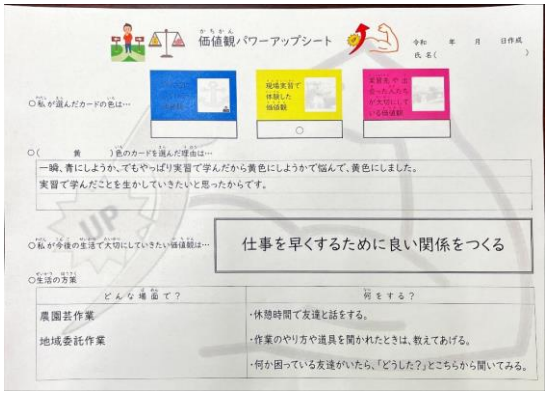

図９　価値観パワーアップシート

最後に学習のまとめとして、この価値観パワーアップシートに関する発表会を行い、それぞれの価値観パワーアップシートを共有し、お互いを激励し合う機会を設けた。自分が今後の生活で大切にしていきたい価値観カードをどの色から選んだかについて、理由を自分の言葉で説明し、選んだ価値観を今後パワーアップさせるために今の生活で具体的にどんなことに取り組んでいくのかという決意を発表したり、友達の発表を聞いて良かった・すごかったと感じたことや応援メッセージを伝え合ったりした。この活動をとおして、自分との相違点に気付きそれを認めたり尊重したりする姿や、自分たちが成長（パワーアップ）するために「みんなで一緒に頑張ろう！」という気持ちを伝え合う姿が見られた。また、自分が希望する将来の職業生活の実現を目指すために大切なことは､今の自分を成長（パワーアップ）させることであり、今の自分をパワーアップさせるためには、『「自分がどうしたいか？」を考え、行動すること』が大切であることをおさえた。

そして、３色のカードの意味や、将来の職業生活において社会が求める価値観（社会人基礎力）と３色のカードの関係性（図 10）を確認し、どの色の価値観カードを選んでも間違いではなく、自分の価値観を深めたり広げたりすることが大切であることを伝えることで、生徒は今の自分の取組（生活の目標と方策）が将来の職業生活につながっていることを実感するとともに、今の自分の取組に対する納得感と自信をもつことができた。

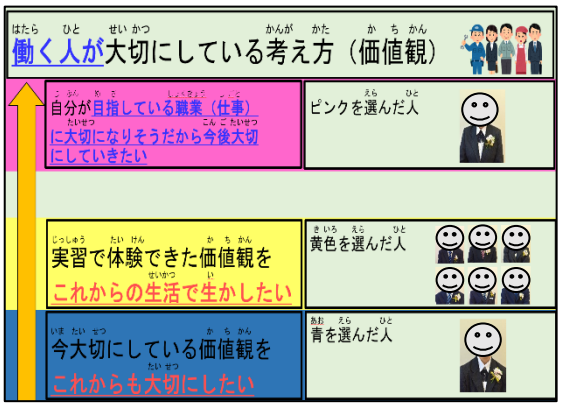

図 10 社会が求める価値観と３色のカードの関係性

Ⅲ 結果と考察

１．事例生徒の表れと考察

ここでは高等部１年の事例生徒の表れを基に教育実践の成果について考察する。なお、事例生徒及びその保護者には研究の主旨と個人情報の保護について事前に説明をし、了解を得ている。また、学会・論文等での発表についても併せて了解を得ている。

（１）事例生徒の実態

ア 基礎的汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力

分け隔てなく人と関わることができ、日常的な話題や自分の興味のある事柄については、友達と自然にやり取りすることができる。しかし、友達の意見や考えが自分と異なったときは、他者の意見や考えを尊重したり、共感したりすることが難しいことが多い。他者の立場や役割を正確に理解したり、他者の発言の根拠や背景を想像したりするためには、教師とのやり取り（対話）が必要である。また、教師との対話をとおして根拠や背景を理解（確認）した後でも、「はい。」「分かりました。」などと言うものの、納得できない表情をしていることが多い。

②自己理解・自己管理能力

自己肯定感や自己有能感は高いが、自分と他者を比較して自分を客観的に捉えることが難しく、自分の得意・不得意についての理解も主観的な捉えとなることが多い。さまざまな活動に対して、抵抗感なく比較的前向きに取り組むことができるが、現状に満足しやすく自ら向上心をもって取り組もうとする姿はあまり見られない。自分で取り組んだ結果、うまくいかなかったり、失敗したりしても、現状を教師に報告したり相談したりすることは少なく、失敗を素直に受け入れられないことが多い。

③課題対応能力

注意散漫で、情報を聞きもらすことがある。聞きもらした場合でも周囲に自ら確認することはなく、自分が思ったり考えたりしたとおりに行動する。また、物事を順序立てて考えたり、つなげて考えたりすることが苦手で、「目的に沿った目標を自分で設定する→その目標を達成するための方策を自分で考える→自分の取組結果を整理して課題に気付く→結果を踏まえて修正する」という PDCA サイクルを自分で進めることが難しい。

④キャリアプランニング能力

将来の職業生活は、「お寿司屋さんになりたい」という明確な希望がある。しかし、現状としては、さまざまな寿司ができるまでにどのような下準備が必要かなどの知識はまだ少なく、そのためにどんな技能を身に付ける必要があるかなどの職種理解を深める必要がある。また、働くことで他者の役に立ちたい・助けたいなどの意欲はあまり感じられず、社会貢献をしたいという意欲はあまり見られない。

イ 事例生徒の K－ABC Ⅱの検査結果と解釈

①検査結果

KABC-Ⅱの検査結果を表４に示した。認知総合尺度 80 は「平均の下」、習得総合尺度 54 は「非常に低い」の範囲であり、両尺度間に有意な差がみられた。認知尺度では得点平均 87 に対して計画尺度 100 が個人内差で強い（PS）であり、同時尺度 90 も平均以上であった。一方で継次尺度 74 は個人内差で弱い(PW)であり、学習尺度 84 も平均以下であった。習得尺度では得点平均 63 に対して、語彙尺度 66、算数尺度 66、書き尺度 63 が高く、読み尺度 60 が平均未満であったが、ばらつきは大きくなかった。

表４　KABC-Ⅱの検査結果

認知検査	標準得点	習得検査	標準得点
認知総合	80	習得総合	52
継次尺度	74	語彙尺度	66
同時尺度	90	読み尺度	60
計画尺度	100	書き尺度	64
学習尺度	84	算数尺度	66

②認知面の解釈

認知検査の結果について、以下のように解釈した。なお、教育実践に事例生徒の得意・不得意を生かすために、個人内差に焦点を当てて解釈した。

【得意】

・見て理解し判断・行動する力が高い

・見て全体や細部をとらえて理解する
・見たこと、聞いたことを覚えておく
【不得意】
・物事を１つずつ順番に処理する
・見たこと・聞いたことを整理する（情報の整理）
・見たこと・聞いたことをもとに推理・推測する
・見えないもの（他者の立場や役割、他者の価値観や意思、自己の客観視等）を意識する

③習得面の解釈

習得検査の結果について、以下のように解釈した。

【得意】
・覚えた手順で処理する
・見たものの名前を覚える
・目の前にある数を処理する
【不得意】
・文字・文章の読み書き
・文章の組み立て
・語彙力

④授業実践における支援と配慮

解釈によって得られた事例生徒の得意・不得意を基に、教育実践における支援と配慮について以下のように考えた。

【得意を生かした支援】
・見えないものを視覚化する
・課題を具体化し判断・遂行したうえで考えさせる
・自分の取組や過去の成果を視覚化し、次のステップを考えさせる
・順序や段取りを視覚化し１つ１つの判断を認める
【不得意への配慮】
・言葉で長々と説明しない
・情報を与えすぎず、必要最低限に絞る
・抽象的な表現は避け、本人視点で考えさせる
・ミスや誤りを指摘するのではなく、次にどうすれば良いかを考えさせる
・精神的なプレッシャー（不安、焦り、恐怖等）をかけすぎないようにする

（２）事例生徒の変容

前期（４～７月）の自分が希望する将来の職業生活を見据え、目指す姿（なりたい自分）に向けた今年度の目標を設定し、そのための方策（日々の学校生活・家庭生活でどんなことに取り組むのか）を考え、実践と振り返りを行って結果を整理して見直し、新たな目標設定を行う PDCA サイクルで「自己実現」を目指す学習においては、将来の職業生活と今の生活がつながっている実感をもったり、どのようにつなげていったら良いかを想像したりすることができなかった。そのため、「何をどのように考えたら良いのか、どのような順序で考えたら良いのか」が分からず、目標と方策を自分で考えられずに頭を抱えている様子が多く見られた。教師と対話をしながら、どのような順序で考えていけば良いかを伝え、目標と方策を考えるように促したが、目標と方策が決まった後も納得した表情はなく、生活の方策に対する取組姿勢も主体的とは言えなかった。また、方策を実践した後の振り返りにおいても、自分で結果を整理することが難しかった。

しかし、上記の「得意を生かした支援」と「不得意への配慮」を講じた本実践においては、多くの主体的な姿が見られただけではなく、「将来の職業生活を見据え、自らの価値観を広げようとしている」と捉えることができる姿が見られた。

ア 自己理解を深める（自己の価値観理解と価値観の見える化）学習の様子

ライフラインチャート（図２）を見て自分がこれまでの人生で大切にしてきた考え方（価値観）は何かを価値観チェックリストの項目を参考にしながら分析結果シート（図３）に整理する学習においては、「○○の体験のときに××の気持ちになったのは、自分が△△という考え方を大切にしているから」というように、体験と気持ちと価値観をつなげて考えることで、過去の自分と今の自分がつながっていることを実感して、「そういうことか。」と発言したり「この体験も△△という考え方を大切にしているから？」と照らし合わせて考えたりする姿が見られた。

価値観チェックリストの結果（図１）とライフラインチャートの分析結果（図３）を照らし合わせて、今の自分が最も大切にしている考え方（キャリア・アンカー）を価値観の中から６つ選ぶ学習（キャリア・アンカーシート（図４）の作成）においては、価値観チェックリストの結果、ライフラインチャートの分析結果ともに納得感をもって作成することができたものであったため、それぞれの結果を比較しながら自分で優先順位決めて６つの価値観を選ぶことができた。また、なぜそれを選んだのか、なぜその順番にしたのかなどについても自分で説明することができた。

このような主体的な姿を引き出すことができたのは、過去の体験やそのときの気持ち、現在の自分の大切にしている考え方（価値観）などの目には見えないものを見える化（視覚化）し、自分でリフレクションできたことが要因であると考えられる。

イ 成長を実感する（体験の抽象化と価値付け）学習の様子

エピソード記録集を使って、現場実習中のさまざまな出来事（成功談や失敗談）や出会った人など、生徒が印象に残っているエピソード（体験）からどんなことを学べたかを分析し、結果をエピソードⅠ（図５）に整理する学習では、自分が体験したことから学ぶことができた大切な考え方（価値観）は何かを考えるこ

とはできたが、「一緒に働いた人たちが自分に対して優しく接してくれたのはなぜなのか？」、「一緒に働いた人たちが、仕事をしながらいろいろと話しかけてくれたのはなぜなのか？」など、他者の思いや意図を自分で想像したり推測したりすることは難しい様子が見られた。

そこで、実習前の予想と実習後の現実とのギャップである「自分の予想に反して、働いている人たちは仕事とは関係ない話をしながら仕事を進めていた」というエピソードに着目し、この体験から学ぶことができる大切な考え方（価値観）は何かを教師との対話をとおして考えるように促した。話をしながら仕事を進めている２人をＡさん、Ｂさんと仮定してイラストに示し、「ＡさんとＢさんがたくさんのコミュニケーションをとると、今後２人の関係はどうなるか？」と問いかけると「仲良くなって良い関係になる」と応え、他者の行動の結果を予想することができた。その後、「ＡさんとＢさんが仲良くなって良い関係になると、２人が進めている仕事はどうなるか？」と問いかけると「２人で協力するから仕事が早く進むようになる。例えば、Ａさんが自分の仕事が終われば、Ｂさんに声を掛け、Ｂさんの仕事が終わっていない場合は手伝うかもしれない。」と応え、たくさんの仕事を多くの人が分業して進めている職場の姿を思い浮かべながら、他者の行動の理由を推測することができた。

教師とのこのようなやり取りをとおして、実習先の人たちが自分に対して優しく教えてくれた理由や、コミュニケーションをとりながら仕事を進めている理由を自分で推測することで、自分で体験を抽象化し価値付けることができた。また、『実習の体験から「一緒に働く人たちとコミュニケーションをとって仕事を進めると、良い関係となり、仕事を早く進めることができる」ということを学ぶことができた』と自己の成長を実感する様子が見られた。

このような主体的な姿を引き出すことができたのは、以下の３点が要因であると考えられる。

①他者の思いや意図などの目には見えないものを、教師とのやり取りをとおして自分で推測できたこと。
②自己の体験を振り返る中で、自分で体験を抽象化し価値付けることができたこと。
③実習の体験とその結果（体験から学ぶことができた大切な考え方（価値観））を目に見える形で整理することで、自分でリフレクションできたこと。

ウ 今の取組（生活の目標と方策）が将来の職業生活とつながっている実感と今の取組に対する納得感をもつ学習の様子

作成した３種類の価値観カードの中から、今後の生活で大切にしていきたいカードを１枚選び、その価値観を大切にするための方策を考える学習（価値観パワーアップシート（図９）の作成）では、10 数枚のカードから何を選んだかではなく、「３色のうち何色のカードを選んだか」に着目した。この活動において教師は、「事例生徒はこれまで自分が大切にしてきた価値観であるキャリア・アンカーカードの青色カードを選ぶだろう」と予想していた。これは、事例生徒は「今まで大切にしてきた考え方をこれからも大切にしていきたい（今まで自分が大切にしてきた考え方はこの先も大切だし、変わることはない）と考えるだろう」と予想したからである。しかし、事例生徒は、青色のカードではなく、現場実習エピソードＩで確認した体験から学ぶことができた価値観カードの黄色カードを選んだ。事例生徒が黄色を選んだ理由は、「一瞬、青色にしようかと思ったが、やっぱり実習で学んだから黄色にしようかで少し悩んで、黄色にした。実習で学んだことをこれからの生活で生かしていきたいと思ったから。」と話し、自己の価値観を広げていこうとする姿が見られた。また、黄色カードの中から「仕事を早くするために人と良い関係をつくる」という価値観を選び、「自分だけではなく他者とのより良い関係を築きながら協力することで仕事を早く進めることができる」という実習をとおして自分が新たに学ぶことができた価値観を、今後の生活に生かしていきたいという明確な意志が表れていた。

この価値観を今後の生活で大切にしていくための方策を考える場面においても、自分で具体的な場面を作業学習と設定し、具体的な方策として、休憩中にいろいろな人と話をすること、作業の進め方や必要な道具などを聞かれたときは教えてあげることの２つを考え、自分の実習の体験を想起しながら方策を考えることができた。また、その場面で教師が、『作業中に仲間の様子を見ていて、「なんだかあの人は困っているのかもしれないな…。」と感じたらどうする？』と問いかけると『そんなときは「どうした？」と声を掛けた方がいいです。聞かれたときだけではなく、見ていて困っていそうだと思ったら声を掛けた方がいいです。』と応え、自ら具体的な方策に書き加える姿が見られた。

また、価値観パワーアップシートを共有し、お互いを激励し合った発表会では、自分が選んだ色とは異なるピンクカード（実習先や出会った人たちが大切にしていた価値観カード）を選んだ友達の発表に対して、発表を聞いて良かった・すごかったと感じたことや応援メッセージを伝える場面を設けた。友達の発表に対しては、「コミュニケーションをとっていろいろな人と仲良くすることはとても大切だと思う。自分は、小学部の最初のころは、人とあまりコミュニケーションをとらなかった。だけど、人とコミュニケーションをとろうと頑張ったらいろいろな人と仲良くなって、いろいろな話ができるようになった。だから頑張ってください。」と話し、自分の過去の体験から学んだ大切

な考え方（価値観）を想起し、友達の発表との共通点を見出して話すことができた。

このような主体的な姿を引き出すことができたのは、以下の３点が要因であると考えられる。

①実習の体験とその結果（体験から学ぶことができた大切な考え方（価値観））を目に見える形で整理し自分でリフレクションすることで、自分の成長を実感できたこと。

②「自分だけではなく他者とのより良い関係を築きながら協力することで仕事を早く進めることができる」という新たに学んだ価値観への納得感が強かったこと。

③「自分だけではなく他者とのより良い関係性を築きながら協力することで仕事を早く進めることができる」という新たに学んだ価値観と、「人とコミュニケーションをとろうと頑張ったらいろいろな人と仲良くなって、いろいろな話ができるようになった」という過去の自分の体験を照らし合わせ、２つの事柄の共通点として『人と良い関係をつくることは大切なことである』という価値観を自分で導き出せたこと。

エ 本実践後の学習の様子

本実践後、事例生徒は価値観パワーアップシートで決めた生活の方策を主体的に実践する姿が見られた。前期までは、決めた方策を実践するには作業日誌の目標に記入させたり、事前に教師と話をしてやるべきことを確認したりする必要があった。しかし、本実践後は、事前に教師と確認しなくても『今日の作業で○○さんと一緒に作業をしていて、○○さんがその場で止まってしまっている様子があったので「どうした？」と声を掛けました。』と報告してきたり、『今日は休憩中にＡさんと話をしました。』と報告してきたりする様子が見られ、決めた方策を日々の生活で意識し、主体的に実践することができた。「自分だけではなく他者とのより良い関係を築きながら協力することで仕事を早く進めることができる」という実習をとおして自分が新たに学ぶことができた価値観を、今後の生活に生かしていきたいという明確な意志の表れであるとともに、体験に基づいた自己形成の広がりであると捉えた。

また、「今一番頑張っている授業は何ですか？」という質問に対して「職業科」と応え、職業科の学習に対する意欲の高まりが見られた。

このような主体的な姿を引き出すことができたのは、今の取組（生活の目標と方策）に対する納得感をもつとともに、今の取組が将来の職業生活とつながっている実感をもつことができたことが要因であると考えられる。

２．本実践の成果

本実践及び事例生徒の考察をとおして、目的である「生徒自身が将来の職業生活を見据え必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え実践を評価・改善して表現する力を養うとともに、自分が目指す将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、今の生活を改善しようとする実践的な態度を養うことで生徒のキャリア発達を促すこと」を達成するためには、以下の３点が大切であると考えられる。

①今の取組（生活の目標と方策）に対する納得感をもつこと。

②自己の価値観を知り、他者の価値観との共通点や相違点に気付き、自己理解を深めること。

③自己成長の実感と今の取組（生活の目標と方策）が未来（職業生活）につながっている実感をもつこと。

また、①・②・③のサイクルを回すことで生徒は職業科の学びを自分事として捉えられるようになり、生徒のキャリア発達を促す（自己実現のリフレクションと体験に基づく自己形成を図る）ことができることがみえてきた（図 11）。

３．これからの課題とまとめ

本実践は、高等部１年生を対象に行った教育実践を元にしている。高等部１年生の段階における本実践の有効性を実感することはできたが、この教育実践を２年次、３年次にどのようにつなげていくかは今後の検討事項である。また、この教育実践の成果を他の教科・領域へどのようにつなげていくかも今後検討していきたい。

生徒たちは、高等部に入学して３年後には社会参加をしていくことになる。３年後の社会参加を見据えたとき、生徒の指導・支援に当たる教師は、「社会（職場）が求めている価値観（社会人基礎力）を卒業までに身に付けさせなければならない」というトップダウンの発想になりがちである。このトップダウンの発想は自然なことである。しかし、本実践をとおして、「教師側が身に付けさせたい・大切にさせたいと考えている価値観を生徒自身がどのように捉えているのか」という『その子の考え方』や、「生徒はどのような価値観を大切にしているのか」という『その子らしさ』を支援者が正確に把握することが大切だと実感した。生徒に対して、無理に社会が求めている価値観を身に付けさせよう・大切にさせようとするのではなく、『生徒自身が自分の価値観（自分らしさ）と社会（職場）が求めている価値観に違いやギャップがあることに気付いたり、その違いやギャップを理解したりすることができるようする』という視点を大切にしていきたい。

生徒たちは、社会参加した際に自分の価値観（自分らしさ）と職場が求めている価値観が一致（マッチ）するとは限らない。『価値観の違いやギャップに対し

て調整したり折り合いをつけたりして取捨選択をすること』がキャリアであると考える。調整や折り合いをつけるためは、自分の価値観と職場や他者の価値観の違いやギャップがあるときに、悩んだり葛藤したりする必要がある。また、価値観のぶつかり合いで自分の価値観が否定されたときにそのままにせず、ぶつかり合った経過と結果を振り返り、「成果」に着目することで『価値観がぶつかり合うことは悪いことではない』と感じさせることが大切であると考える。

今後の職業科や他の教科・領域等の学校生活場面において、生徒が価値観の違いやギャップを感じて悩んだり葛藤したりする体験を意図的に設定し、その体験のリフレクションを生徒任せにせず、教師との対話をとおして体験の抽象化と価値付けを図り、生徒が「成果」に着目できるようにすることで、『価値観がぶつかり合うことは悪いことではない』と感じられるようにしたい。このような取組を積み上げていくことで、生徒の価値観のアップグレードを図り、自己形成の広がりや深まりを促していきたい。『生徒一人一人のキャリアの力をボトムアップする』という視点を忘れずに教育実践に取り組んでいきたいと考える。

謝辞

本実践を進めるにあたり、本校高等部の共同研究者としてアドバイスや御助言をいただいた、愛知教育大学の高綱睦美先生、静岡大学の石川慶和先生に感謝をいたします。

（参考・引用文献）

マズローの欲求５段階説研究会（2022）　マズロー欲求５段階説～あなたの幸せが伝わらない理由～

全国特別支援学校知的障害教育校長会（2021）　知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン～本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて～

静岡大学教育学部附属特別支援学校（2021）研究集録

文部科学省（2019）　特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）（高等部）

経済産業省産業人材政策室（2017）　「人生 100 年時代」を踏まえた「社会人基礎力」の見直しについて

文部科学省（2011）　高等学校キャリア教育の手引き

エドガー・ヘンリー・シャイン（2003）　キャリア・アンカー～自分の本当の価値を発見しよう～

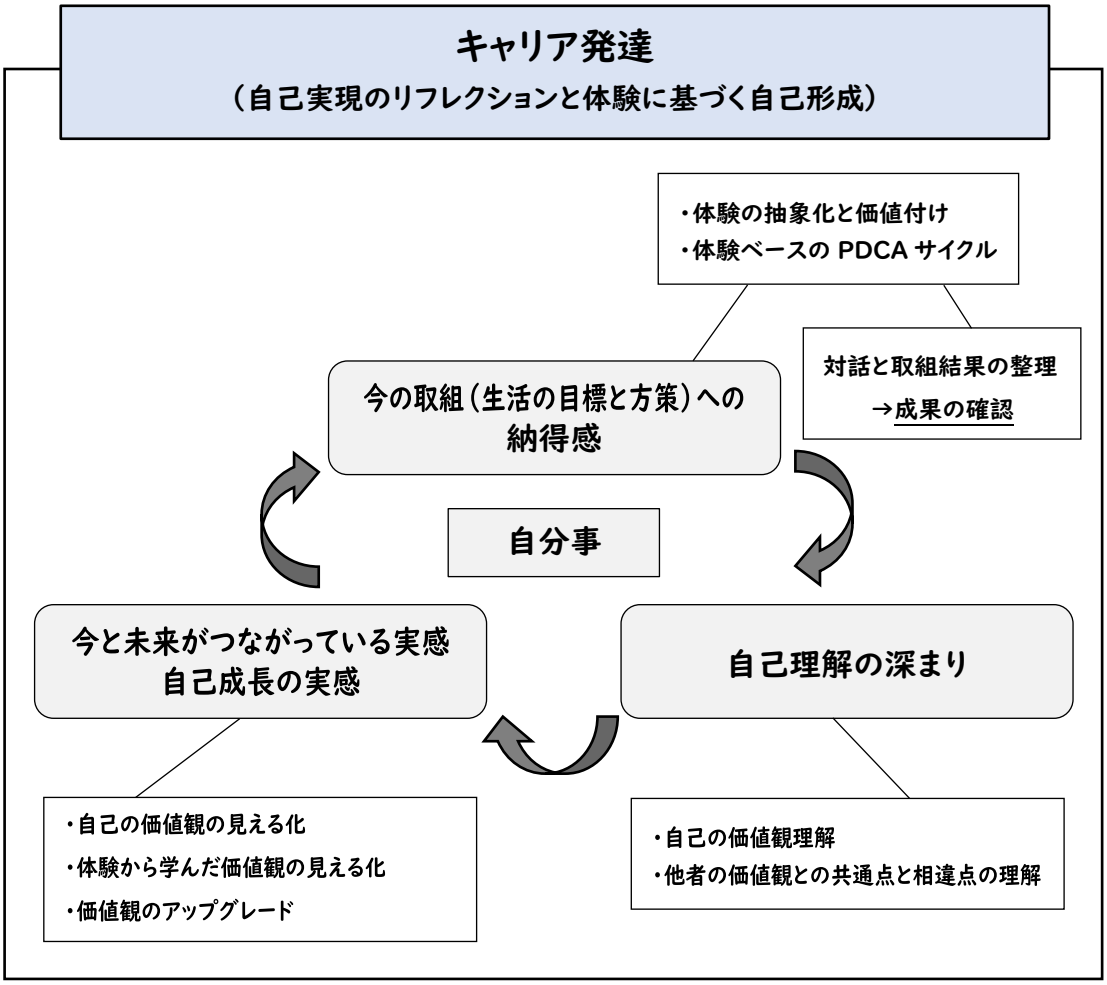

図 11　職業科における自分事とキャリア発達